

本学では、志願者は6人、合格者は3人であった。

## 第7節 生涯学習事業

### 第1項 公開講座の進展

本学における公開講座は、大学を地域社会に開放する事業の一環として1972年度（1講座）に開設されて以来、1999年度（18講座）までさまざまな公開講座が実施され、ほとんどの講座が毎週土曜日の午後に開設している。受講生は講座により異なるが、小学生（スポーツ講座）から一般市民等にいたるまで幅広い範囲で参加している。

1995年度には学内に生涯学習推進委員会が設置され、毎年本委員会において次年度の公開講座の実施内容について審議・検討し、決定している。開設講座数も年々増え、テーマも生活に関するものから、スポーツ、健康、園芸、高齢化社会、情報処理教育、環境問題にいたるまでの多彩なものになってきている。

また、1995年度からは全学規模で開設する全学公開講座（教務課担当）と各学部の特色を出した、部局主催講座（部局担当）の2本柱で実施しているが、本講座に対する地域住民各層の関心と期待は大きく、講座によっては受講希望者が募集人員を大幅に上回る状況である。

1997年度までに開設した公開講座を年度別に掲げると表2-14-17のとおりである。

なお、公開講座全体の所管は学生部教務課で行っている。

表2-14-17 公開講座

年 度		1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
講 座 数		1	4	3	2	2	4	4	4	4
年 度	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990
講 座 数	4	5	6	7	6	6	6	6	7	6
年 度	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	
講 座 数	6	7	6	4	9	14	16	15	18	

## 第8節 課外活動

### 第2項 けやき倶楽部の発足

千葉大学を拠点に、生涯学習に取り組もうと本学主催の公開講座受講生らの声がかきつけとなり、1995年10月14日全国でも初めてという、大学と地域のパイプ役を担う千葉大学生涯学習友の会「けやき倶楽部」が発足、初代会長に生田幹夫氏が就任し、活動を開始した。

現在、倶楽部の会員は約220名で、公開講座の参加者や地域の一般市民が中心である。本学主催の各種生涯学習事業に参加・協力するほか自主的な活動・会員相互の親睦を目的としている。倶楽部では「ふれあい、共に学び、共に生きる」の旗印のもとに話し合いを通して相互学習を進めている。グループメンバー同士が話し合いをしながら、互いに教えあったり、学びあったりしていくグループコミュニケーション活動を通して学習する「歴史」、「文芸・芸術」、「哲学・宗教」、「政治・経済」、「健康・福祉」、「国際理解・情報」、「スポーツ・コミュニケーション」、「環境」の8つの自主学習グループで学習活動を続けている。主な学習場所としては、大学構内にあるけやき会館および附属図書館1階に設けられた地域交流コーナーを大学側が開放し、利用している。発足後、大学と共催による公開シンポジウムや倶楽部が主催する対話型講演会、各種フォーラム等には大学側も講師陣として参加し、会員との交流も図られている。

倶楽部では会員の情報交換のための会報「CAM」も現在までに第11号を発行している。

また、グループ学習に関する研究会、などさまざまな生涯学習の試みに地域社会も注目し、千葉テレビは1997年9月に「共に学ぶ大学講座生 けやき倶楽部」と題するドキュメンタリー番組を放映した。

## 第8節 課外活動

### 第1項 課外活動施設

1963年に文理学部および学生部が小中台地区から西千葉地区に移転したが、当時体育施設としては、同年に整備された陸上競技場、サッカー場、野球場、テニスコート